

(公財) 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団 2018年度 事業計画書

[公1 ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業]

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募)

2018年度の多施設共同研究として公募申請された5件について、事業委員会において審査した結果、次の2件が採択された。(公募制度13年目)

- (1) わが国における小児緩和ケアチームの診療実態に関する多施設前向き観察研究
- (2) 特別養護老人ホームに入居している認知症をもつ人の人生の最終段階におけるケアの満足度を測定するツールの開発

2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業 (第4次調査・3年目)

本事業は第1回目(J-HOPE1)を2006年度~2008年度、第二回目(J-HOPE2)を2009年度~2011年度、第3回目(J-HOPE3)を2012年度~2015年度に実施した。調査研究は主研究と付帯研究で構成され、世界的に大規模かつ質の高い研究として国際的にも評価されている。主研究では緩和ケア病棟のケアの質を評価し、その結果を各施設にフィードバックすることによりケアの質の改善を促すものである。第4次調査(J-HOPE4)は、日本・韓国・台湾でのコホート共同研究と遺族調査を関連させて実施する予定である。本事業は4年間の計画であり、2018年度は調査票の送付と回収、およびデータ入力を行う予定である。

3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2019』(特集テーマの概説+データブック)作成・刊行事業

『ホスピス緩和ケア白書』として、2017年度版まで下記の14冊を刊行・配布している。2019年度版では、「パリアティブ・ケア・ナーシングの経緯と現状、そして展望」をテーマとして計画している。

2004年 ホスピス緩和ケアの取り組みの概況

2005年 ホスピス緩和ケアの質の評価と関連学会研究会の紹介

2006年 緩和ケアにおける教育と人材の育成

2007年 緩和ケアにおける専門性 ~緩和ケアチームと緩和ケア病棟~

2008年 緩和ケアにおける医療提供体制と地域ネットワークの状況

2009年 緩和ケアの普及啓発・境域研修、臨床研究

2010年 緩和ケアにおけるボランティア活動とサポートグループの現状

2011年 がん対策基本法とホスピス緩和ケア

2012年 ホスピス・緩和ケアに関する統計とその解説

2013年 在宅ホスピス・緩和ケアの現状と展望

2014年 緩和ケアにおける専門医教育の現状と課題&学会・学術団体の緩和ケアへの取り組み

2015年 ホスピス・緩和ケアを支える専門家・サポーター

2016年 緩和ケア・がん患者サロン・デイホスピス

2017年 小児緩和ケアの現状と課題

2018年 がん対策基本法の“これまで”と“これから”

2019年 パリアティブ・ケア・ナーシングの経緯と現状、そして展望(仮) (2019年3月発行予定)

4. 意思決定支援に関する背景・課題の整理と普及に関する検討

緩和ケアの普及や、高齢者の増加を背景に、意思決定に関しての知識の普及や実践の必要性が求められている。しかし、意思決定支援に関するニーズが高まる一方で、意思決定支援の方法について十分な情報がないのが実情である。本研究は、日常生活に関する意思決定能力を簡便に評価し、それに基づき簡便な

支援の方針を確認できるプログラムの開発を目的とする。具体的には、海外で提案されている「日常の医師検定能力アセスメント法 (ACED)」を参考に日本語版を作成し、医療機関、介護施設等で検討し、標準化を行う予定である。

[公2 ホスピス・緩和ケア人材養成事業]

5. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケアにおけるボランティアの役割を確認し、そのケアの向上をめざす研修セミナーは2002年以来継続して日本病院ボランティア協会との共催で実施されている。従来は関西地区での開催が多かったが、地方での開催を求める声が多くあり、本年度は札幌市で開催を計画した。

- ・実施予定日と場所：2018年6月8日(金) 札幌市教育文化会館仙都会館
- ・講師：清水 哲郎氏 (岩手保健医療大学 学長)
中村紀子氏 (音楽療法士)

6. Whole Person Care ワークショップ開催事業

本ワークショップは2012年より開催され、ホスピス・緩和ケアに従事する医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどのメディカルスタッフの育成を目的としたもので、従来の知識提供型ではなくグループワークを通じてWhole Person Careの学びを深めるものである。2018年度は昨年と同様、コースⅠ、コースⅡの開催を計画した。

- ・実施予定日：Whole Person Care ワークショップ・コースⅠ 2018年8月4日(土)
Whole Person Care ワークショップ・コースⅡ 2018年8月5日(日)
- ・場 所：千里ライフサイエンスセンター(豊中市)
- ・講 師：恒藤 暁氏(京都大学大学院医学研究科)
安田裕子氏(中京大学)
- ・参加費：各コース 賛助会員10,000円 非会員15,000円

7. グリーフケア研修セミナー開催事業

ビリーブメント(死別)とそれに伴うグリーフ(悲嘆)に対する援助は、ホスピス・緩和ケアの領域のみならず、東日本大震災という未曾有の災害により大きな社会的関心事となりつつある。しかしながら、ビリーブメント体験についての理解や、死別者への援助手法に関して、わが国での学術的な貢献は、十分とはいえないのが現状である。このため当財団は、スピリチュアルケアへの貢献の一環として、この分野での基礎研究から臨床実践までを含めた学術的交流として「グリーフ&ビリーブメント カンファレンス」の開催を継続して実施してきた。本年、その交流会が「日本グリーフ&ビリーブメント学会」として発足し、その総会において研修セミナーが開催される予定となった。

- ・実施予定日：2019年2月
- ・場所：未定
- ・テーマ、講師： 検討中

8. 高齢者介護施設等の看取り教育研修(3年目)

2025年問題、すなわち団塊の世代が死を迎えることから、病院で看取りを行うのは設備的にも財政的にも困難で、今後は高齢者介護施設での看取りが必要となる。しかし、これらの施設では看取りの経験が少なく、敬遠される傾向にある。このことより、高齢者介護施設を対象にした看取りの教育プログラム開発が必要であり、本財団が担うべきで事業である。昨年度は、介護施設職員(介護福祉士等)の看取りに関する意識、また阻害要因を明らかにする目的でWEB調査と、インタビュー調査を行った。2018年度は調査結果の論文化および、教育プログラムの作成作業を行う予定である。

9. 『Whole Person Care : Transforming Healthcare』 翻訳事業

2016 年度に出版した『新たな全人的ケア』（Whole Person Care 日本語版）に続いて、そのシリーズとして Hutchinson 教授が執筆された『Whole Person Care: Transforming Healthcare』（Springer 社）の日本語版を出版し、Whole Person Care 事業の充実を図る。2018 年度に翻訳を完了し、2019 年度の発行を計画している。

10. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体のプログラム創生事業

がん体験者は、本来これまでの人生の過程で、潜在する生活の知恵、生きるための力を有しているが、がんという疾患に圧倒され戸惑う体験する。がん体験者の本来の知恵と力を引き出し、育む市民文化を根付かせていくためには、地域での新たな場の創生が不可欠である。このため 2015 年 4 月から、京都において、病院外で提供され、市民が気軽に利用でき、がん体験者と家族同士の触れ合い、語り合い、また専門家によるがん相談が受けられる、新たな地域コミュニティとして「ともいき京都」活動を開始した。これまでの 2 年半に渡る活動実績から、地域での認知度が向上し当事業に対する信頼が醸成された。次期 1 年間は、活動のさらなる質の向上を目指し、「ともいき京都」に関わるがん体験者と市民が主体となった新たな企画として、「ともいき京都」に関わるボランティアのケアの質向上のための教育研修を実施することが必要である。

- ・実施予定日時：1) 「ともいき京都」：2018 年 4 月～2019 年 3 月各月 2 回(第 2・第 4 金曜日)
14:30～20:00、計 24 回
- 2) ともいき京都ボランティア教育研修：2018 年 5 月・10 月、10:00～17:00
- ・場所： 1) 2) 共、風伝館（京都市中京区）

11. 医療者の燃え尽き症候群防止プログラム GRACE*1 普及のための指導者研修会開催事業

ホスピス緩和ケアに従事する医療者は多くのストレスを抱え、時に燃え尽き症候群につながる大きな問題となっている。GRACE プログラムは、燃え尽き症候群を防止し、よりよきケアを提供するために構築された医療者向けプログラムである。今回この GRACE プログラムの指導者である、バック教授とラシュトン教授を招聘し、日本の医療現場において GRACE トレーニングを指導できる人材を養成することを目的とする研修会を開催することを計画した。

*1 : GRACE : Gathering attention Recalling intention Attuning to self and other
Considering what will serve Engaging, Enacting ,Ending

- ・実施予定日：2018 年 6 月 9 日（土）～10 日（日）
- ・場所：千里ライフサイエンスセンター ライフホール
- ・講師：アンソニー・バック教授（ワシントン大学医学部）、シンダ・ラシュトン教授（ジョン・ホプキンス大学看護学部）

[公 3 ホスピス・緩和ケアに関する普及、啓発事業]

12. 一般広報活動事業

ホスピス・緩和ケアの普及・啓発活動のため、年 2 回の『ホスピス財団ニュース』の発行を始め、ホームページの充実、更新その他必要に応じて財団のパンフレット改定・刊行などを行う。

13. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷

『これからのとき』は 2006 年の出版以来、遺族ケアの働きに用いられている。また、『旅立ちのとき』は 2016 年 8 月に発行し、いずれも継続的に追加配布の要望が寄せられており、必要に応じ増刷を行う。

14. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業

ホスピス・緩和ケアについての正しい理解を一般の方々へ広く啓発する目的で、財団設立以来継続して

実施しており、講演とシンポジウムを軸としたプログラムである。2017 年度までに 30 都市で開催した。2018 年度は、大分市で開催を予定している。

- ・実施予定日：2019 年 1 月
- ・場 所：コンパルホール 文化ホール（大分市）
- ・講師：山崎章郎氏

〔公 4 ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業〕

1 5. ホスピス財団 第 2 回 国際セミナー開催事業

ホスピス・緩和ケアに関する、先進情報の入手することは、わが国におけるホスピス・緩和ケアの質の向上に寄与することから、海外より講師を招聘し、定期的に国際セミナー開催事業を行っている。2018 年度は、米国から Robert Macauley 氏を招聘して、東京と大阪でセミナーを開催することを計画した。

- ・実施予定日と場所
東京 2018 年 6 月 30 日（土）13:30～18:30 品川インターシティホール 会議室
大阪 2018 年 7 月 1 日（日）13:00～18:00 梅田スカイビル・スカイルーム
- ・テーマ：米国の緩和ケアにおける倫理的ジレンマ
- ・講師：Robert Macauley 氏（米国 オレゴン健康医学大学医学部 准教授）

1 6. International Congress on Palliative Care 学会参加

カナダ McGill 大学の Balfour Mount 教授が創設し、隔年に開催される緩和ケアに関する国際会議であり、当財団から参加予定である。

1 7. APHN 関連事業費

当財団はシンガポールに本部を設置する APHN（Asia Pacific Hospice Network）の会員として、当財団設立以来その活動を支援している。2018 年度は 9 月にシドニーで開催される APHN 理事会に当財団より 2 名が参加予定である。

1 8. 日本・韓国・台湾 第 2 期共同研究事業（4 年目）

緩和ケア病棟に入院している患者を対象としたコホート研究として、終末期がん患者の死にゆく過程の諸症状の変化や治療の効果を明らかにすることを目的として、研究が開始された。2016 年度は、韓国、台湾の研究者を招き、合同会議を行い、調査結果に基づいた具体的な研究内容を決定し、研究計画書を作成した。研究目的は、緩和ケア病棟に入院する終末期がん患者における終末期医療の実態の探索である。続いて研究対象とする患者登録を開始し、2017 年度も患者登録作業を継続し、日本国内では目標症例数の 1600 名の登録を達成した。また、韓国・台湾でも 300 名以上の登録を行い、調査票を送付した。対象施設は全 37 施設（日本 22 施設、韓国 11 施設、台湾 4 施設）である。2018 年度は調査票の回収、データ整理および解析を行い、研究全般の報告書を作成する予定である。また本研究は、遺族対象の J-HOPE4 と一部データを連結することを予定している。

以上